

# 解析ケース

表1 解析ケースの設定

シナリオ	① 全量再処理 FBR導入	② 再処理/処分並存 (その後、 再処理を選択)	②' 再処理/処分並存 (その後、 直接処分を選択)	③ 全量直接処分
原子力比率Ⅱ				
Ⅱa 2030年以降 30GWe一定	—	Ⅱa-②	Ⅱa-②'	—
Ⅱb 2030年以降 引き続き減少	—	—	Ⅱb-②'	—

# シナリオ評価における評価項目について

- エネルギー安全保障、ウラン供給確保
  - 天然ウラン累積需要量
    - ⇒ FBR導入により天然ウラン累積需要量が頭打ちとなり、最終的にウラン資源の海外依存から脱却し、エネルギー安全保障に貢献することを示す
  
- 使用済燃料管理・貯蔵、放射性廃棄物
  - 使用済燃料貯蔵量
  - 放射性廃棄物発生量(高レベル放射性廃棄物、低レベル放射性廃棄物)
  - 処分場面積
    - ⇒ FBR導入により使用済燃料貯蔵量、放射性廃棄物発生量、および処分場面積が減少し、環境負荷低減に貢献することを示す

## 確認事項

- 併存シナリオでは短期(5年後)～中期(2030年頃)に政策判断するとしているが、5年後に政策判断するケースを実施する
- 「もんじゅ」は少なくとも政策判断の時点までは運転し、最長で2029年まで運転。「FBR実証炉」は全量再処理を選択した場合に導入